

ものづくりリーダー 養成講座

(赤城塾)

製造業の未来を担う
リーダー育成プログラム

受講料
(税込み)

5回コース
220,000円

11月7日
早割締切

早割価格
198,000円

※講座毎の申込の場合
1講座 55,000円

全
5
回

2025 12.2 (火)・12.23 (火)

2026 1.15 (木)・2.5 (木)・2.26 (木)

定員15名

会場 日本VE協会 (東京都世田谷区駒沢 最寄り駅:田園都市線駒沢大学駅)

講師 赤城 弘一氏 (立命館大学OIC総合研究機構 客員教授 / VDA講師 / (株)赤城エンジニアリング 代表取締役 / CVS)

主催 日本VE協会 バリューデザインアカデミー

赤城 弘一氏

立命館大学OIC総合研究機構 客員教授
株式会社赤城エンジニアリング代表取締役
CVS

本講座のコンセプト

背景と主旨:ものづくりに不可欠な構造・信頼性・製造・コスト・組織の各領域に深く通じ、それらを体系的に再構築し、次世代に伝える力を持つ赤城弘一氏を講師に迎え、「ものづくりの本質」を学ぶ講座として設計しております。本講座では、「現場での設計・開発」と「構造的思考」の接続を重視し、単なる知識伝達ではなく、設計判断力・育成力・構想力を備えた次世代技術リーダーを育成します。

対象者: ①製造業に携わる中堅～管理職の実務技術者 ②VES / CVS資格取得を目指す方
③技術のタコツボ化に危機感を抱き、体系的知識と構造的思考を持ちたいと願う若手技術者

この講座で得られる力

- ・設計思考:構造・信頼性・製造・組織を横断して学ぶことで、設計判断の視座を得て、**複眼的思考の枠組みを養う**
- ・VEとテアダウンの本質的理解:VEとテアダウンを対比的に学び、それぞれの分析軸を組み合わせた立体的な理解を得る
- ・技術リーダーシップ:組織視点から設計や人材育成を捉え直し、チームや部署の創造性を引き出すリーダーシップを養う
- ・言語化・伝達力:暗黙知や経験知を言語化・構造化し、技術を「再現可能」な形式知に落とし込む力を得る

お申込みは、日本VE協会HPへ (www.sjve.org)

ものづくりリーダー養成講座

検索



第1回 顧客目的を実現する 構造設計の進め方 － 顧客価値を見抜き、 カタチに変える設計力 － 2025年12月2日(火) 10:00～17:00(開場9:30) 12:30～13:30(昼休み) ◎製品の価値は設計で決まる ・設計価値を決める、顧客の「使用目的」 ・顧客の使用目的を見抜く視点と視点 ・顧客がそれを使う「環境」を分析する ◎設計条件を見抜き、決める ・製品の「使われ方」を推定する ・製品の「物理的制約」を設定する ・設計評価の「観点」を設定する ◎評価方法を選び、設計を磨く ・体格評価と詳細評価 ・体格評価の観点とプロセス ・詳細評価の観点とプロセス ・評価方法を評価する ◎設計の「物差し」をつかむ ・設計はバラツキと安全率で評価される ・材料のバラツキ ・物理量のバラツキ ・使用目的による安全率 ・評価方法による安全率 ◎他社製品から学ぶベンチマーク法 ・似て非なるものはつくらない ・凹凸に注意する ・温度分布に着目する ◎一流の設計者の視点を手にいれる ・自然は超一流の設計者 ・木の形、水の流れに学ぶ 【ゲストトーク】  伊藤 学氏 (いとう まなぶ) 東京ガス株式会社 資材部調達企画グループ リーダー CVS VEを経営言語に昇華させる リーダーシップ VEを経営マターとし、組織の共通言語にまで高めるには、現場での改善から出発し、組織の壁を越え、仲間をつくり、人を動かし続けなければならない。その背景にある共感と構造のリーダーシップの原理と実践について語る	第2回 長期運用を可能にする 信頼性設計の進め方 － 劣化を先読みし、 長く使える製品を実現する － 2025年12月23日(火) 10:00～17:00(開場9:30) 12:30～13:30(昼休み) ◎信頼性とはになにか ・信頼性とは「寿命+安心」である ・信頼性設計は「設計」だけではない ・期待される信頼性を定義する ・信頼性設計とは何か(構造、運用、保守) ◎時間に耐える設計を考える ・劣化を前提に設計する ・冗長性とフェールセーフ ・劣化を局所化し、分離する ・劣化のすべてを「想定」することはできない ・先行機種・類似製品から学ぶ ◎モニタリングが「安心」をつくる ・変化という「兆し」をつかむ ・寿命の「見える化」が安心を生む ・遠隔からの常時監視の仕組みをつくる ◎劣化を見抜き、進行を予測する ・劣化とは製品の「苦しみ」 ・劣化は森と枝葉を同時に見る ・劣化のメカニズムを解明する(FTA) ・過去に縛られず、いまの五感や直観を信じる ◎トラブル対応で信頼を守る ・顧客を「不意打ち」してはいけない ・事前予測と迅速な情報伝達がキモ ・トラブルこそが信頼性を築く 【ゲストトーク】  松野 思迪氏 (まつの ことみち) 立正大学経営学部経営学科 専任講師 早稲田大学総合研究機構 価値創造マネジメント研究所 招聘研究員 スマートマニュファクチャリングの 最前線 サイバーフィジカルシステム(CPS)やデジタルツインの導入は、ものづくりの在り方を大きく変えつつある。システム統合やデータ活用の進展とともに顕在化する課題を整理し、今後の展望を示す	第3回 サプライチェーンを強化する コストダウン設計 － 上流でコストを作り込む共創力 － 2026年1月15日(木) 10:00～17:00(開場9:30) 12:30～13:30(昼休み) ◎サプライヤーと「共創関係」を築く ・コストダウンとは交渉ではなく、共創 ・サプライヤーが求めるコストダウンとは何か？ ・下げるより「下がる」構造をつくる ・ノウハウを提供し、製造力を高める ・組織階層別に働きかけるアプローチ ◎利益を共有するコストダウン ・コストダウンは目的ではない ・コストダウンの目的と目標を共有する ・市場環境の共通理解を確立する ◎VEを共通言語にする ・サプライヤーのVEアレルギーを理解する ・VE提案者に損をさせない仕組みをつくる ・VE「教育」で終わらせてはいけない ・VE実践を通じてパートナーシップを築く ・事例の共有で成功イメージを描く ・活動の事前設計と準備を徹底する ◎共同VE活動を実践する ・ニュートラルなファシリテーターとして 場を導く ・VE5原則に立ち返って本質を確認する ・知財の権利を明確にし、後の摩擦を防ぐ ・相互利益を明示して、継続的な協力を得る ◎提案を必ず実行につなげる ・VEチームでフォローを継続する ・提案から実行まで間を空けない ・実行計画を具体的に設計する 【ゲストトーク】  枝川 義邦氏 (えだがわ よしくに) 立命館大学大学院 テクノロジー・マネジメント研究科 教授 脳の働きと意志決定 合理的な意思決定手法はさまざま存在するが、VUCA時代においては分析主導型の意思決定では十分に対応しきれないこともある。人間がなす意志決定の中でも直感を取り上げて、脳内の仕組みや精度を上げるための方策を示す	第4回 固有技術が強みに替える 管理技術の進め方 － 技術を仕組みに変え、 組織の力にする － 2026年2月5日(木) 10:00～17:00(開場9:30) 12:30～13:30(昼休み) ◎管理技術＝成果を生む技術 ・競争力＝固有技術 × 管理技術 ・ターゲットは「ムリ・ムラ・ムダ」 ・管理技術を統合して「文化」にする ◎ムラをなくし、安定を生み出す ・ムラ＝ばらつき・不均一が生産性と品質を下げる ・ムラは環境から生まれる(4MPR・PQQST) ・動作や5Sは「できていないか？」 ・標準化と平準化 ・ボトルネックを見つけ、能力を上げる ◎ムダをなくし、価値を生み出す ・ムダ＝価値を生まない動きや工程 ・7つのムダを見抜き、徹底して排除する ・動作不全を防ぐ仕組みを確立する ・検査や加工もムダの源泉になる ◎ムリは続かない ・ムリがムラを生み、ムダが積み上がる ・ムリとは人や設備の過剰な負荷 ・歴史から学ぶ ・ラインのムリを「視る」管理 ◎テアダウンとTRIZ ・分解と比較で構造・コスト・発想を学ぶ ・テアダウンのプロセス ・イノベーション＝矛盾の克服 ・制約条件が矛盾を生む ・テアダウン × TRIZ × VE 【ゲストトーク】  川上 浩司氏 (かわかみ ひろし) 京都先端科学大学 工学部 機械電気システム工学科 教授 不便益－効率を超えて 価値を生み出す視点 「不便さ」が人の創造性や学習意欲を引き出し、豊かな体験や新しい価値を生むことがある。「不便益」という逆説的な発想から、エンジニアが当たり前とする「効率＝一辺倒」を問い直し、新たな発想の余白をもたらす	第5回 組織的創造を生み出す コミュニケーション － 知識をつなぎ、 組織に創造を生み出す － 2026年2月26日(木) 10:00～17:00(開場9:30) 12:30～13:30(昼休み) ◎暗黙知を浮かび上げらせ、形式知化する ・暗黙知とは何か ・暗黙知を組織の力に変える ・SECIモデルを実装する ◎知恵を組織の力に変える ・日本企業の強み「組織的知識創造」 ・部門を超えた「すり合わせ」が強みをつくる ・すべての暗黙知は形式知化できる ・自工程完結は「問題」を形式知化する ◎製造と設計をつなぐコンカレント エンジニアリング ・CEとは知識を循環させるプロセス ・図面ではなく、設計の意図を正しく伝える ・製造の暗黙知が、設計力を高める ・伝達不全を防ぐ仕組みを確立する ・設計と製造の橋渡し役を担える人材と組織 ◎作業要領書という「知の伝達装置」 ・日本企業停滞の要因「属人化」 ・技術の断絶につながる属人化＝聖域化 ・ムリ、ムラ、ムダを生む属人化 ・標準は定義ではなく、設計する ・言語化し、再現性を検証する ・知恵は文書化されることで組織知となる ◎モノづくりにリーダーとなるために ・エンジニアとは知識を価値に変換する人 ・一流エンジニアの勉強法 ・社外に出よ、他業種から学べ ◎ネットワーキング懇親会(希望者・費用別) 【ゲストトーク】  内田 佳代氏 (うちだ かよ) 東京科学大学非常勤講師 株式会社ETERNAL SMILE 取締役 CVS 安定志向の組織における 変化を生み出すコミュニケーション 「改善＝混乱」とされる土壌のある医療という世界で、いかに対話を通じて「変えること」への安心感を育み、成功体験を積み上げていくのか。安定を守りながら、変化を生み出すコミュニケーションについて語る
--	--	---	--	--

講師紹介  赤城 弘一氏 (あかぎ こういち) 立命館大学OIC総合研究機構 客員教授 / 株式会社 赤城エンジニアリング代表 取締役 / CVS 国立九州大学工学部航空工学科卒。石川島重工業株式会社に入社。防衛庁向けの航空エンジンの開発設計に5年間従事。回転部品の構造設計・構造解析そして要素試験を担当。 その後、三菱重工業株式会社に入社。ガスタービンの開発設計に15年間従事。同社製造部門に異動し、製造管理職を設計・調達(兼務)に10年間従事。日本の工場の生産性の向上と海外工場の立ち上げに従事。(VEの技術導入) 同社技術本部にて、全社でのコストダウン設計指導に2年間指導。その後、製造現場のデジタル化の推進業務に5年間従事し、定年退職。 現在、立命館大学にて管理技術とAR(拡張現実)そしてAIを用いた作業者の有する属人的な知識の形式知化の研究中。また設計者の有する属人的な知識の形式知化の研究にも取り組んでいる。同時に日本VE協会の業務および製品改善コンサルタントとして東京ガス株式会社などを指導中 本講座を受講いただきたい方 設計部門・製造部門・品質保証部門に 属し、以下のような課題認識を 持たれている方 ☐ 卓越した技術者がもつ「設計アタマ(視座・視点・思考回路)」を身につけたい ☐ 部門や専門の枠を越えて、全体最適で製品・プロセス・組織を設計・実装したい ☐ コストダウンや品質向上を、部分最適ではなく価値創造のプロセスとして実現したい ☐ VE・テアダウン・5Sなどの管理技術・手法を統合的に使いこなせるようになりたい ☐ 若手・中堅エンジニアを指導する立場として、設計思考を「言語化・構造化」して伝えたい ☐ 技術と組織をつなぐリーダー、設計・生産の未来を構想できる人材を目指す ☐ 組織の枠を超え、技術者・ビジネスパーソンのネットワークを広げたい
